

第77回ソフィア祭

多彩な企画で来場者を魅了

第77回ソフィア祭(学)者など、ソフィア祭に関する企画が、11月1日の前夜祭から4日にかけて開催される。今年の特徴は「BUMP」。「在学祭をつくりあげたい」というソフィア祭実行委員の思いが、今年の特徴となっている。ソフィア祭は、学生、卒業生、ゲストや来場者など、多くの人々の想いや個性がぶつかり合い、心を揺さぶられるような学内イベントの連続である。1日の前夜祭では、上智ナンバー1の歌声を決めるカラオケバトルや課外活動団体によるサークルライブの発表など、学生が活躍の場を多く提供された。また、今年も「Sophian's Contest」ファイナリストの5人が発表された。



学内は多くの来場者で賑わった



「Sophian's Contest」ファイナリストの5人

「Sophian's Contest」ファイナリストの5人が、自身の魅力のPRや、社会課題に対する考え方を発信するインフルエンサーとしての活動を競い合った。グランプリは、「SNSで持続可能な地方創成を」をテーマに発信した大塚健人さん(外独4)が受賞した。もう一つは、昨年も好評を博した「Sophian's Got Talent」。「上智

には、SNSを中心に絶大な人気を集めるバンド「ねぐせ」が特別ライブを行い、ソフィア祭の開幕を盛り上げた。2日から4日の本祭では2つのメインイベントが行われた。一つは「Sophian's Contest」。

大学から未来のスターを発掘しよう」というコンセプトのもと、6組のファイナリストたちが、歌、ダンス、ジャグリング、バンドパフォーマンスといったそれぞれの特技を披露した。観覧エリアからは拍手や拍手などが起り、出演者と観客が一体となってステージを楽しみ様子が見られなかった。その他、本学卒業生で

音楽協議会主催 第47回音楽祭

600人を超える観客が来場



10月7日、江戸川区総合文化センターで、音楽協議会主催第47回音楽祭

が開催された。音楽協議会では、音楽協議会に所属する課外活動団体(全11団体)が一堂に集まり、日頃の練習の成果を披露するコンサート。600人を超える観客が来場した。今年のテーマは「Tutti」。イタリア語で「全てを意味し、演者や観客を含む全ての人に楽しんでほしい」という願いを込めた。音楽協議会に所属する団体同士の交流を促すため、音楽祭に独ステージのほか、吹奏楽研究会、吹奏楽団、管弦楽団、室内合奏団、箏た」と話している。

ロッテベンチャーズ・シヤパン代表取締役社長の澤田貴司氏(81年物理卒)による講演会や、NHK朝ドラ俳優福原遥さんへのトークショー、高校生向けの模擬授業・入試相談会などのさまざまな企画が行われた。閉祭式では、オンライン投票による各企画の受賞発表や表彰なども行われ、盛況のうちに幕を閉じた。

大切な想いをアートで形に残す

ビジネスを立ち上げ

芸術に、心を救われ、結婚の音楽を作曲家や演劇家など、様々な分野で活躍するアーティストに、アートで大切な想いを形に残す。ビジネスを立ち上げる。水口莉里花さん(文新4)だ。水口さんが



水口 莉里花さん

「アートの本質に出会った瞬間でした。誰かが心を込めて作ったものが、誰かの心を救い、豊かにする。アートの世界で生きていきたい、その想いを形として残すことができないかと思案して、素敵な作品を届けたい」と話している。

「大学の学びのなかで、作品が依頼者とアーティストの幸せにつながるものに対して恐れや不安な点を挙げれば、不安な心でぶつかっていく度、胸。偏見を捨て、フラッシュバックを乗り越え、新しい視点を持つことで、感謝の気持ちを伝えてくれたときは、大きなモチベーションになりました。そして、応援してくれる仲間や、これまで心配をかけた母への恩返し、気持ちを胸に、世界中の人の手に届かせたい」と話している。

「子どもの命名書を書いたり、結画、技巧を凝らした繊細な感性で描かれた絵画、芸術に対する憧れを抱

「子どもの命名書を書いたり、結画、技巧を凝らした繊細な感性で描かれた絵画、芸術に対する憧れを抱

外国語学部語劇祭

言語の魅力を演劇で表現

12月17日に外国語学部10号館講堂で開催される。語学力向上と日頃の学習成果を学内外に発表し、言語や異文化に興味を持ってもらうことを目的としている。



昨年の語劇祭

上智大学外国語学部では、12月17日に外国語学部10号館講堂で開催される。語学力向上と日頃の学習成果を学内外に発表し、言語や異文化に興味を持ってもらうことを目的としている。

「Zauberwerk」の命日に行われるザビエル祭に向けた1週間を「ザビエルウィーク」として、建学の精神とカトリックアイデンティティを思い起こすための期間としている。今年度のテーマは「大衆文化に溶け込むキリスト教」。

ザビエルウィーク

テーマは大衆文化に溶け込むキリスト教

本学では、12月3日の聖フランシスコ・ザビエルの命日に行われるザビエル祭に向けた1週間を「ザビエルウィーク」として、建学の精神とカトリックアイデンティティを思い起こすための期間としている。今年度のテーマは「大衆文化に溶け込むキ

「ザビエルと語る」がテーマ。映画など、大衆文化・日常の中にあるキリスト教とは、という点に着目した。課外活動団体のカトリック学生の会が企画し、11月27日から12月1日にかけてクルトゥールハイム聖堂を一般公開した。12月1日には神学部の角田佑一助教、増田健講師、大西崇生講師、イエズス会の山内保憲神父、渡邊徹郎神父と学生によるパネルディスカッション「現代のフランシスコ」が行われた。

日程	時間	団体名	演目	場所
12月17日(日)	11:45開場/12:00開演	フランス語劇団	Cendrillon(シンデレラ)	10号館講堂
	14:45開場/15:00開演	ドイツ語劇団	Schneeweißchen und Rosenrot(雪白と紅薔薇)	

※詳細は各団体のウェブサイト・SNSで発信
フランス語学科 Instagram: @la.congere. ドイツ語学科 ウェブサイト: https://dept.sophia.ac.jp/fs/german/news/